

ジョコビッチの

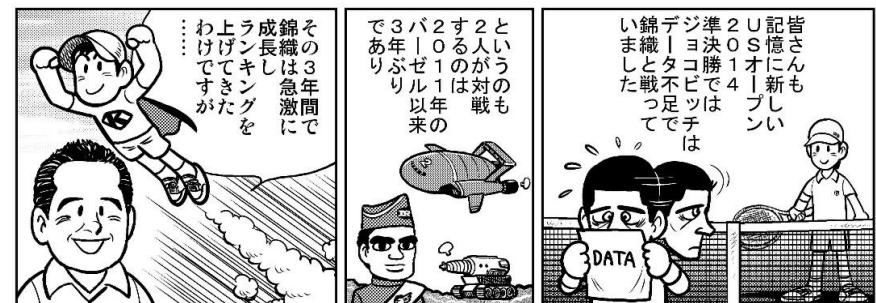
錦織 圭への返礼

監修/辻野隆三(MIRAI TENNIS ACADEMY) 作画/石川正順

ノバク・ジョコビッチ
 1987年5月22日生まれの27歳
 身長188cm/体重80kg
 ユーゴスラビア・ベオグラード出身
 対戦時のランキング1位



錦織 圭
 1989年12月29日生まれの24歳(対戦時)
 身長178cm/体重68kg
 島根県出身
 対戦時のランキング5位



対戦相手がどんな場面でも放ちてくるかという展開を戦ってみたいものなんです

ジョコビッチは錦織のプレーを現実には見るものその成長を肌で感じ取っていません

半探り状態のジョコビッチを粉砕したわけです

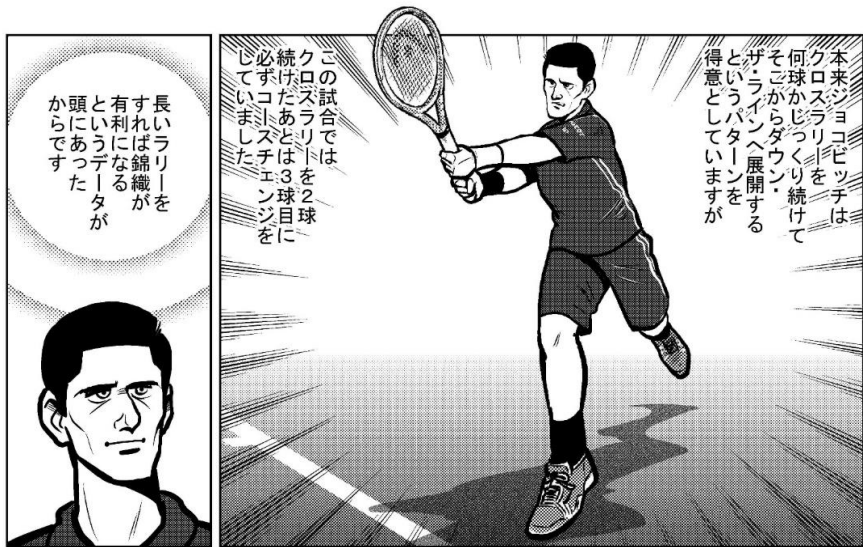
錦織もその条件は同じですが、失う物がない挑戦者という立場が彼の勢いを後押しして

そして毎年 ツアーの締めくくりとして ATPファイナル 準決勝で 相まみえる ことになりました

11月のマスターズ1000 ハリ大会では 錦織が手首を痛めていたのを オープン後に お互いベストで 臨む試合だと思えます

この時点で 2人の対戦 成績は 2勝2敗のタイ

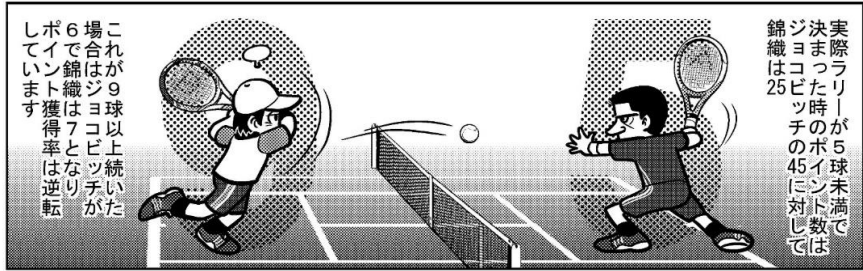
さあ ジョコビッチは どのように返したのでしょうか



本来ジョコビッチはクロスラリーを何球かじっくり続けてそこからダウン・ラインへ展開するというパターンを得意としています

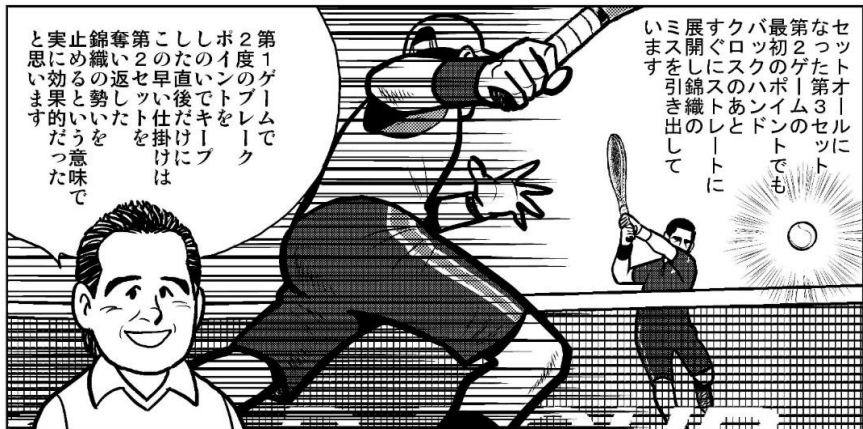
この試合ではクロスラリーを2球続けただとば3球目に必ずクロスチェンジをしていました

長いラリーをすれば錦織が有利になるというデータが頭にあっただからです



実際ラリーが5球未満で決まった時のポイント数はジョコビッチの45に対して錦織は25

これが9球以上続いた場合はジョコビッチが6ポイント獲得率は逆転しています



セットオールになった第3セット最初のポイントでもバックハンドのクロスとその後すぐに展開し錦織のミスを引き出しています

第1ゲームで2度のブレイクポイントでキーポイント直後だけにこの早い仕掛けは第2セットを奪い返した勢いを止めるという意味で実に効果的だったと思います



Point ①

ジョコビッチは錦織に勝つためにはやらなければならないことをしっかりと行っていました

その第一は「ラリーを長引かせない」ということです

第1セット第2ゲーム15オールでジョコビッチは錦織のサーブをリターンしたあとに

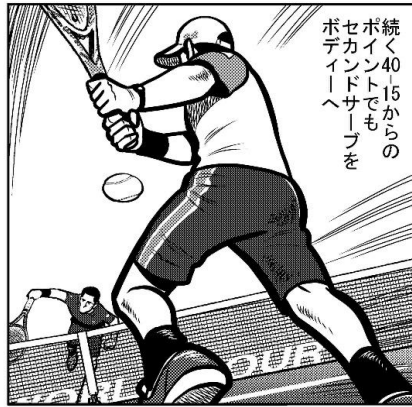
バックハンドクロス

ストリート

フォアのクロス

そしてバックのクロスと同じコースに2球以上打たず

素早い切り返しで攻め続け最後は錦織がミスヒット

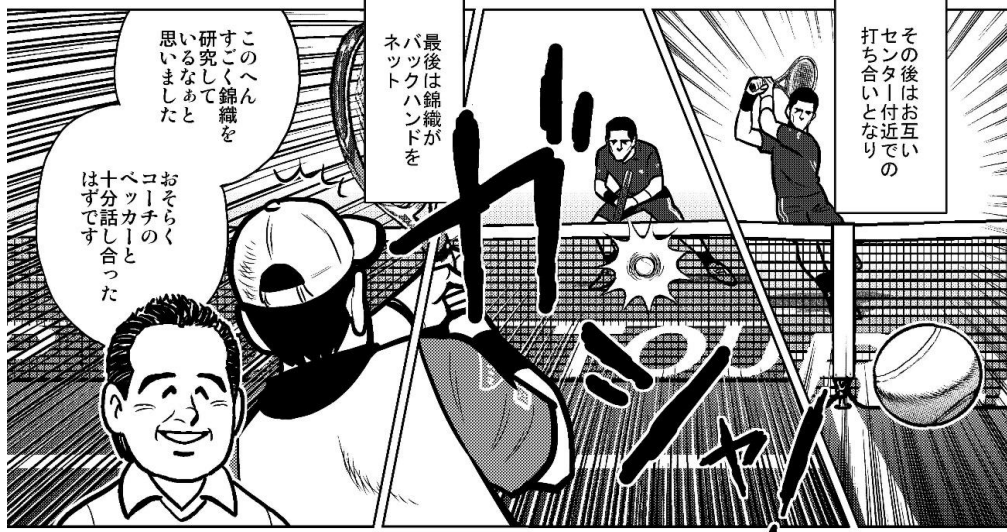


続く40-15からの
ポイントでも
セカンドサーブを
ボデインへ



スピードに欠け
角度をつけた
リターンが
打てません

サーブを
ボデインに
打たれると
どうしても
窮屈な
体勢で
打たざるを
えないので

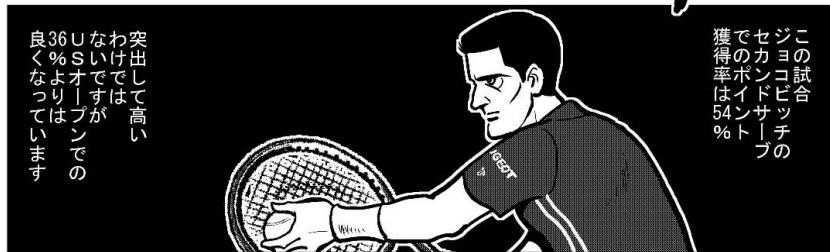


このへん
すごく錦織を
研究して
いるなあと
思いました

最後は錦織が
バックハンドを
ネット

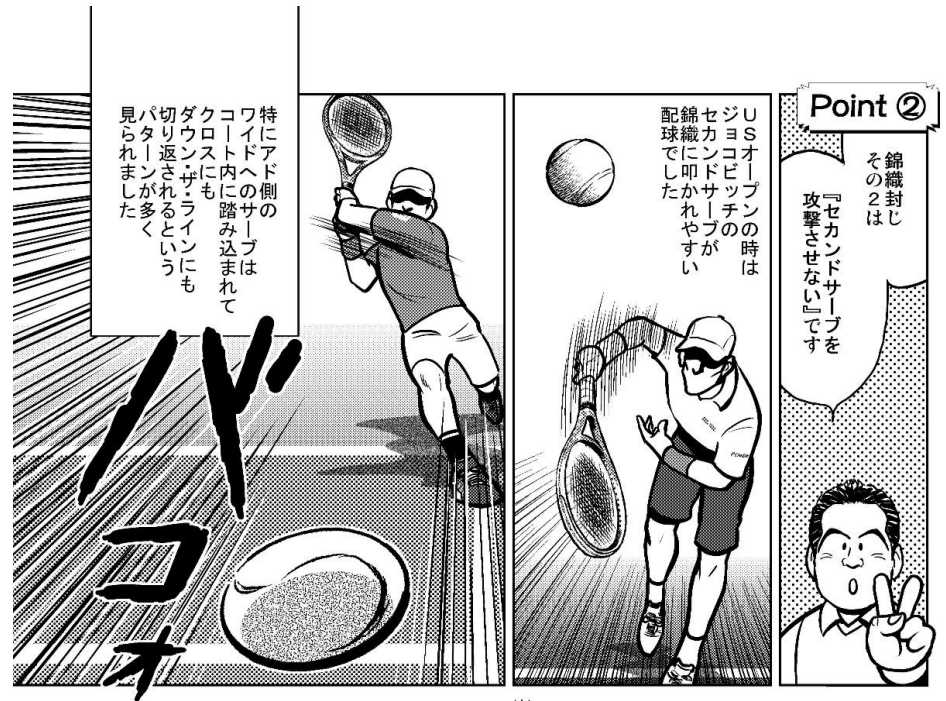
その後はお互いの
センター付近での
打ち合いとなり

おそらく
コーチの
十分話し合った
はずです



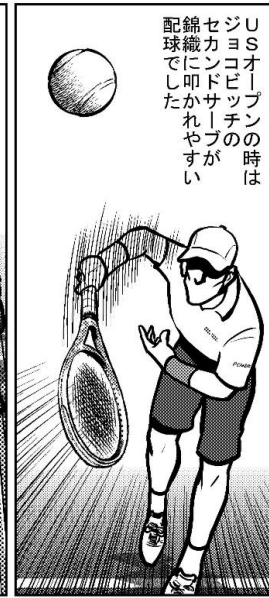
突出して高い
わけですが
USオープンでの
36%よりは
良くなっています

この試合
ジョコビッチの
セカンドサーブ
でのポイント
獲得率は54%



特にアド側の
ワイドへのサーブは
コート内に踏み込まれて
クロストにも
ダウンサーブにも
切り返されるとい
う
見られました

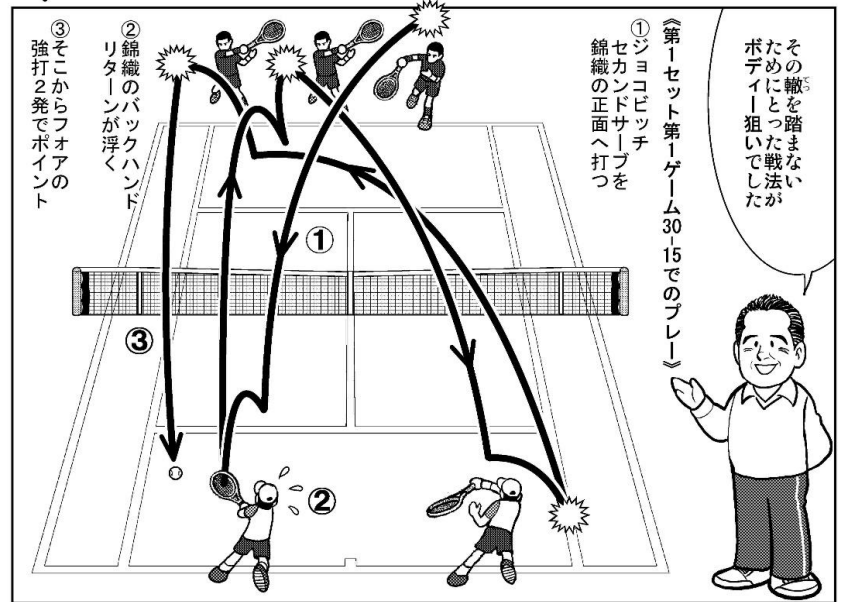
バド
コ
オ



USオープンの時は
ジョコビッチの
セカンドサーブが
錦織に叩かれやすい
配球でした

Point ②

錦織封じ
その2は
『セカンドサーブを
攻撃させない』です



その軌道を踏まない
ためにとつた戦法が
ボデイン狙いでした

《第1セット第1ゲーム30-15でのプレー》



①ジョコビッチ
セカンドサーブを
錦織の正面へ打つ

②錦織のバックハンド
リターンが浮く

③そこからフォアの
強打2発でポイント

